

# 『TVアニメ版 鉄人28号』 ロボット実現化計画

昨年、実写版映画「鉄人28号」が公開されました。また、TVアニメでも「鉄人28号」が放送され、人気を博しました。映画公開時には、「実写版映画鉄人28号」ロボットが発売されました（仕様などの詳細は、本誌No.39の記事を参照）このたび鉄人28号誕生50周年を記念して、「TVアニメ版鉄人28号」ロボットが発売されることとなりました。映画版からTVアニメ版へ、「鉄人28号」ロボット製作までの経緯を紹介していきたいと思います。

## 始動!



©光プロダクション/数島重工

かねい すむ  
金井 進 (ロボクリエーション <http://robo-creation.com>)

## 「実写版映画鉄人28号」

### ロボットの発売

本年は、鉄人28号が誕生して50周年。半世紀の時を経て、空想ではなくロボットの真価が問われる時代に入ろうとしています。早いもので、「実写版映画鉄人28号」ロボットを企画し、次世代ロボット開発ネットワークRooBO\*1の主要メンバーに相談してから、2年が経とうとしています。

ロボットを企画し販売することが、どれほどのリスクを持たなければチャレンジできないのか、ロボット業界に詳しくない当時の私にはまったく理解できていませんでした。プロジェクトが進んでいくたびに、さまざまな問題に直面し、このままだと製品化できないのでは、と思えるようなことが幾度も発生しました。それゆえ、出荷できたときの喜びと達成感は、最高のものでした。

難しい状況と常に向き合いながら、未熟な私の提案にもプロの立場から慎重かつ大胆にプロジェクトに加わっていただき、見事成功にまで導いてくださったプロジェク

トチーム各社、そしてスタッフの皆様方に、この場をお借りしまして深く御礼を申し上げますとともに、ご支援を賜りました鉄人ファンの皆様にごより感謝し、御礼を申し上げます。

利益が出るか出ないかわからない、チャレンジ精神のみで動き出した『鉄人実現化計画』も、昨年3月には「実写版映画鉄人28号」ロボットとして発表されました。発表当日、発売元のヴイストン（株）では、ホームページのアクセスが一時3万ビューを超え、サーバだけでなく、本社が所在するビル全体の電話回線がダウンしてしまいました。その予想以上の反響に、鉄人28号への関心の深さとロボットへの関心の高さを実感し、鳥肌の立つような思いをしたことを昨日のことのように覚えています。



昨年発売した「実写版映画鉄人28号」ロボット

## 「鉄人28号」

### ロボット実現の条件

実は、この『鉄人実現化計画』には、今まで誰にも話してこなかった、外すことのできない11つの『絶対条件』がありました。鉄人を実際のロボットとして誕生させたいとの私の提案に、発売元ならびにプロジェクトのリーダー的役割を受けていただいたヴイストンの大和社長から出た言葉は、「著作権元の了解が取れるのであれば、挑戦してみましよう」でした。しかし、ロボットの生産量は少なく、著作権元とお付き合いがあるわけでもなく（有名なキャラクターは大手のクライアントが権利を持っていることが多い）簡単に著作権元の了解が得られるとは考え難い状況にありました。

さっそく企画提案書を作成し、提案というよりは体当たりに近い状況で交渉に入りました。何度かのやり取りのあとに著作権元から出た言葉は、「このような少額の企画で、新たな契約を立てるのは難しい状況です」という、一瞬にして凍りついてしまうような一言でした。しかし、そのあとに出たのが「実写版映画鉄人28号が来年上映されます。そのプロモーションとしてタイアップしませんか？」という、夢のような話でした。鉄人を実際のロボットにしたいと思っただけの企画が、映画の話題作りとして面白いと評価されたのです。私から

\*1 ロボットテクノロジー都市を構想する大阪市が、新産業を育成するという観点で、(財)大阪市都市型産業振興センターに「ロボットラボラトリー」を2004年11月に設立。そのロボットラボラトリーのビジネス創出を目的として誕生したネットワークが「RooBO」である。ロボットの開発から事業化まで、1社では解決できない案件を、会員企業、アドバイザーで構成されるチームで協力して検討することにより事業化をめざしている。RooBOのWebサイトは、<http://www.roobo.com/>